民俗資料館だより

March 31st, 2024
KAMO CITY MUSEUM OF HISTORY NEWS No. 31

加茂市民俗資料館
館報 第３１号
令和６年３月３１日発行
編集・発行
加茂市民俗資料館

様　々　な　看　板

館蔵の看板　右から二階堂医院・加茂町立図書館・下条中学校・加茂川工事事務所の各資料

民俗資料館では、有名・無名・逸名の個人や団体の事績を反映する様々な看板を所蔵しています。なかで最古級の一枚は、勤皇家で医師の二階堂保則（一八三五～一九〇四）が残した看板です。

蒲原郡古寺村（新発田市）で生まれ、のち中之島村（長岡市）の三浦家へ養子入りした保則は、戊辰戦争で草莽隊（居之隊）に加わったのち加茂町に定住し、上町谷通りで医業を開いて衛生思想の普及などに尽くしました。看板は、裏面に「第五百三十九号」「洋方　内外科医」「明治四年五月開業」などと彫り、医師に免許制が布かれ、西洋医学の習得が義務化したのち、明治十年（一八七七）頃の制作とみられています（民俗資料館「二階堂保則展」目録）。

当館は葵中学校が新設され、同時に閉校となった下条中学校の旧校舎を利用して、昭和四十九年（一九七四）に開館しました。やがて旧校舎は下条コミュニティセンター建設の影響で壊され、平成六年（一九九四）に資料館は加茂市立図書館の旧建物を利用して加茂山の現在地に移転しました。ただ、下条時代に較べて建物は狭くなり、一部の館蔵品は加茂川改修が竣工し、昭和五十九年に用済みとなった加茂川工事事務所（千刈）で保存するようになりました。これらの経緯を反映し、館蔵品には下条中学校・加茂町立図書館・加茂川工事事務所の各看板を含んでおり、施設の奥行きと魅力を深めています。

（中澤資裕）

指物師　田村伴六

加茂市文化財調査審議会委員　渡邊文彦

木工の町としてかつては全国に知られた加茂市。その加茂市で木工職人をしていて、この名前を耳にした事のない者はいないと言っても良い位有名な「田村伴六」。私の職人人生の中でも、何度か作品に出合う事がありました。

まずは、指物（さしもの）について。現代では余り耳にする事のない指物師、指物仕事について少しお話しをしたいと思います。

指物師は、元々は指物大工（大工職の中で、細かな細工物が得意な者）と言われる方々が、細工仕事を生業にした事が始まりの職種。また、指物とは釘などを使用せず、日本独自の仕口（しくち）、組手（くみて）を用いて造る木工品。長火鉢（ながひばち）・茶箪笥・飾り棚・文机（ふづくえ）・煙草盆（たばこぼん）等々、現代の生活では目や耳にしない物ばかりですが、造りは繊細で堅牢、現代の品物の様に決まりきったデザインでは無く指物師の粋は表現や遊び心を

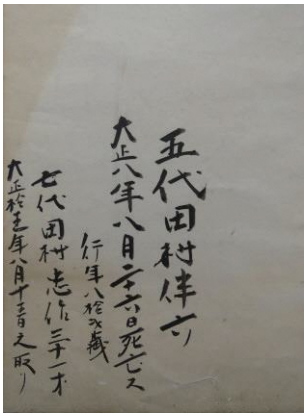


写真１　５代目田村伴六　　裏書と過去帳から、大正８年（1919）に 82 歳で亡くなったこと、６代目が夭折し、７代目の忠治が跡を継いだことがわかる。

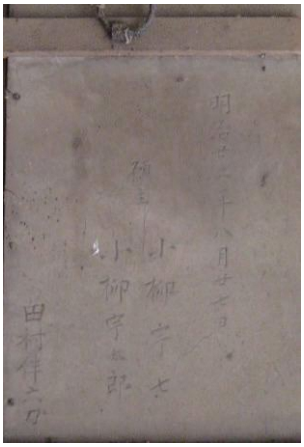
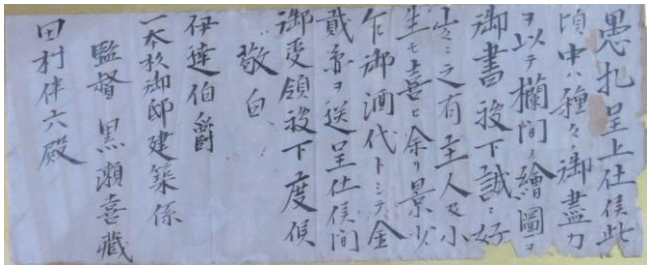


写真 2　仲町の諏訪神社拝殿神額　　明治 22 年（51 歳）製作。材は欅の玉杢（たまもく）の良材で、仕口は木釘を用いて比較的簡単な造り。願主の１人小柳宇七は、小柳宇七商店（小柳建具店）を営んでおり、製作を田村伴六に依頼したと考えられる。「田村伴六刀」とあるため、彫刻のみを頼まれたとも考えられるが、定かではない。



（意訳）
一札謹呈いたします。先日は、様々な御尽力をもって欄間の絵図をお描き下さり、誠にすばらしく、主人も私も喜んでおります。わずかばかりですが、酒代として金二円を送呈するので御受領下さい。
伊達伯爵
一本杉御邸建築係
監督　黒瀬喜蔵
田村伴六殿

写真 3 田村伴六あて黒瀬喜蔵の手紙　　明治 36 年から始まった伊達伯爵（15 代当主伊達連宗）邸の建設で伴六が欄間の絵図を描いた礼状。建物の設計者は角海浜（新潟市西蒲区）出身の山添喜三郎（1843～1923）で、明治５年のウィーン万国博覧会に日本建築を監督して好評を得た。

表　田村伴六の事績

年	年齢	事項
1877 年（明治 10 年）	39 歳	長瀬神社（八幡）「八幡宮」神額の製作
1889 年（明治 22 年）	51 歳	諏訪神社（仲町）「諏訪社」神額の製作
1900 年（明治 33 年）	62 歳	法音寺（上下条）金剛力士像修理
1903 年（明治 36 年）～	65 歳	（旧）伊達伯爵邸の欄間絵図制作の依頼
1911 年（明治 44 年）	71 歳	弥彦神社（弥彦村）「越鎮」額の製作
年不詳		五十嵐神社（三条市）「五十嵐神社」神額の製作
〃		弥彦神社（弥彦村）「伊夜比古神社」神額の製作
〃		廣圓寺（上町）須弥壇の製作
〃		青海神社回廊の透かし彫りと吊灯篭の製作

忍ばせた物が多く、材料には銘木を用いた物が多く、杢目の美しさを愛でる事も指物を観る時の楽しさのひとつだと思います。

今回は、名人と呼ばれた5代目田村伴六の残した仕事について紹介したいと思います。

記録に残る伴六の手掛けたもっとも古い仕事は、明治 10 年の長瀬神社「八幡宮」神額の製作です。その後も、仲町の諏訪神社拝殿の神額を始め何件かの仕事が知られ、仏像の修復も手掛けています。下条村長福寺にあった仁王堂の金剛力士像に付く天衣（てんね）と元結紐（もとゆいひも）を補作したもので、建物・仏像とも法音寺（上下条）の境内に移されて現存しています（『加茂市史』資料編 6）。

さらに注目できるのが、旧仙台藩主の血筋で伯爵の伊達邦宗邸の建設に関わったこと、それに弥彦神社の普請に起用された2点です。伊達邦宗邸は戦後

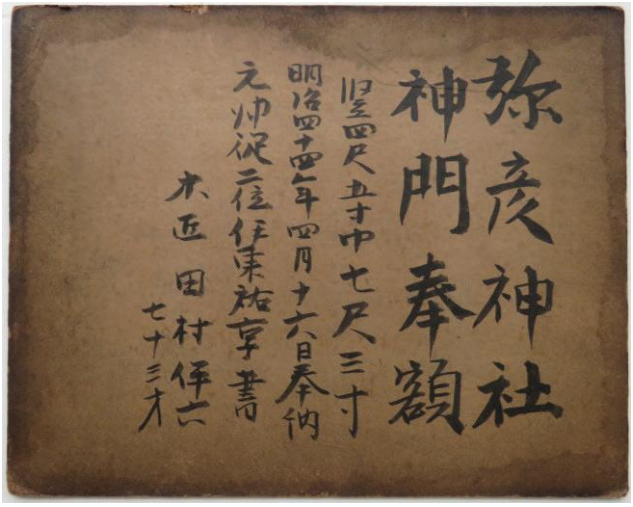


写真4「越鎮」神額と添書き　明治44年（73歳）製作。材は欅（けやき）の良材で、4尺5寸（約136㎝）×7尺3寸（約221㎝）と大型の神額で、随神門に掲げられたが、火災により焼失している。題字は伊東祐亨（ゆき）（1843～1914）初代連合艦隊司令長官の書。

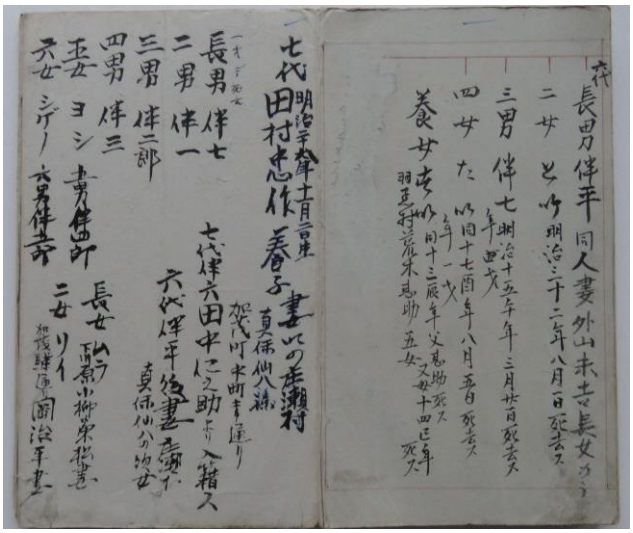


写真5 田村家の過去帳　6代目・7代目の記事

所有権が移り変わり、宮城県の知事公舎や学校施設を経て、現在は「鍾景閣（しょうけいかく）」の愛称で高級料亭になっています。

弥彦神社には、まず明治 44 年に随神門の神額を奉納しています。明治 45 年に弥彦神社は大火に罹り、この額は焼失して現存しませんが、弥彦神社には「伊夜比古神社」の神額が残っているとされています。西蒲原郡にはほかにも作品があり、近年にも建物の普請に際し伴六の名前がみつかり、その人物について田村家へ質問が届いたといいます。

田村伴六を調べるに当たり、現当主で九代目の田村文男氏、八代目田村伴一氏の兄弟田村伴四郎氏聞き取りし、色々な事を教えていただきました。その中で、①伴六が手掛けた青海神社の吊灯篭（つりどうろう）が台風で落下し、七代目の忠作と共に伴四郎が修理をした事、②松坂町の工場の片隅には鞴（ふいご）が有り、特殊な刃は自（みずか）ら製作をしていた事、③田上町の田巻邸（椿寿荘）門扉の欅板（けやきいた）は、明治27年（1894）下田（三条市）の諸橋轍次邸の門扉の欅板と兄弟板（共木）だという事など、尽きる事が無い位色々な仕事に携わって来た事が判りました。又、近年まで、製作原図等の多くの物が残っていたとの事でしたが、処分してしまった様で拝見する事ができませんでした。中でも面白かった事が、「新潟縣　田村伴六様迄」で郵便物が届く事があり、いかに田村伴六が名人としての名を欲しいままにしていたかがうかがえます。

紙漉き農家の暮らし

上土倉　阿部キヨ

上土倉には紙漉きが多かった。紙漉きしなければ奉公に出るとか。ウチは紙漉きで、夏場は畑と田んぼ。住居より土間の方が広いくらいで、真ん中に風呂があってトイレは外。上水道が入る前は井戸枠を設け、パイプを使って3軒共同で水を引いた。井戸を掘っても水が出るところと出ないところがある。ウチは水が出て、風呂は流しっぱなしの水風呂。のち簡易水道が入ったが、私が結婚した昭和30年の時分は、まだなかったかも。上水道は平成6年に入ったから、それまでは簡易水道だった。小屋を建てて、ポンプで水を引き上げた。数年前までその小屋も残していたが、今は壊した。

紙漉きが終わって、ウチのなかの流しが要らなくなった。順々と設備が要らなくなり、昭和 43～44年にこの家を建てることになった。その頃は自分の母親もいたが、あるとき倒れ翌日死んだ。黒水に診療所があって、専門に人力車を引っ張る人がいた。人力車は診療所につきものだった。父親も病気になって、鶴巻正雄さんという七谷の第一農協にいた旦那様が注射を打ってくれた。あの時分は医者の資格がなくても注射くらい打ってくれた。

七谷小学校の集合写真　「昭和 14 年の入学頃と（上）、20年の卒業頃（下）。運動場の方から小学校の敷地へ入ると、大きな桜の木があった。入学頃の写真はそこで撮ったと思う。洋服は少なくて、着物が多かった。担任の先生が病弱で、この組はまとまらないといわれた。そこで、上級生の担任だった五十嵐光子先生から持たれた」

ここらの人はみんな旦那様の小作だった。旦那様の田植えというと、みんな喜んで行き、夜になるとご馳走が出た。

小学校で、私の学年は1クラス女だけで64人いた。担任の先生が厳しい。あの時分、勉強よりどくだん（ドクダミ）とかの薬草や馬の飼葉（かいば）の干し草を刈った。刈るのはみんな一緒でしても、乾燥は家でする。持って来いという出荷日には、オレいっぱいらとかちょっとらといいながら持ち寄った。とにかく勉強より山の中に潜っている方が長い。小学校では男と女まったく交わらなくて、玄関も別。正面玄関は先生方。

あの時代は疎開がいっぱいいた。1学年64人のうち10人くらい。下土倉の吉田さんにもいたし。吉田さんの前に地借りして一家でずっと住んでいたが、子どもだけのところが主だった。

戦後演芸会が流行って、ここらにいる人は青年会に入った。私は小学校6年生で卒業すると、女子青年会に入った。イシアライといって、11 月 15 日になると男も女も一緒になって餅をついたり、演芸会をしたり、若い者（もん）の楽しみだった。それ以外の楽しみは車もないし、自転車でどこかへ行くくらいで。イシアライは集落を単位にした。15人くらいいたか。年長の人たちが順番に宿（やど）（会場提供）をした。今度オメとこらとか。もち米とか持ち寄って、何かを作るのも楽しみで。酒なども持ち寄る。何かを買うことはなかったのでないか。盆踊りも集落を単位に、お宮（十二神社）で、壮年の大人が太鼓を叩いた。高柳とか狭口の猿毛などとも行き来があり、互いに盛り上げたんだろう。世間の人は自転車で来るから大変だ、といっていた。盆踊りでは、男でも女の形（なり）をし、襦袢（じゅばん）などを着て楽しんだ。（談）

（聞き取り：鶴巻美香・集落支援員 鶴巻由加里）

館　外　活　動

1　社会科・総合出張授業

期　日　令和５年６月 15 日　加茂南小６年生
　　令和５年６月 21 日　七谷小５・６年生
内　容　・縄文時代　弥生時代の社会を探ろう
期　日　令和５年９月 27 日　加茂小３年生
内　容　・加茂の宝を見つけよう（加茂山公園）
期　日　令和５年 10 月 31 日　七谷中３年生
内　容　・二万年前旧石器公園について
期　日　令和５年 12 月 20 日　加茂小４年生
内　容　・加茂川水害について（8・12 水害）

2　語り継ぐ「懐かしの加茂」映写会

期　日　令和５年　７月 22 日（土）
時　間　午後２時～3 時 30 分
講　師　田下　一男　氏（青海町一丁目区長）
会　場　加茂市立図書館　視聴覚室
参加者　48 名
映写内容
・「8 月水害」「明日の加茂市を築く加茂川・下条川改修記録」視聴
・青海町一丁目の取り組み紹介

3　古文書講座

時　間　午後５時 30 分～7 時 00 分
会　場　加茂市公民館　第一研修室
【第１回】
期　日　令和５年９月５日（火）
講　師　関　正平　氏
　　（加茂市文化財調査審議会委員長）
テーマ「天保九年　加茂町・下条村の巡検使通行」
　　一般参加者 17 名
【第２回】
期　日　令和５年９月 12 日（火）
講　師　髙橋　雅弘　氏
　　（加茂市文化財調査審議会委員）
テーマ　「山吉氏『三条衆給分帳』を読む」
　　一般参加者 19 名
【第３回】
期　日　令和５年９月 19 日（火）
講　師　佐藤　賢次　氏
　　（加茂市文化財調査審議会委員）
テーマ　「新発田領上知村々の高直し一件」
　　一般参加者 14 名

4　体験ツアー

期　日　令和５年 11 月 11 日（土）
コース　加茂市民俗資料館（集合）～釜渕遺跡～丸潟遺跡～中沢遺跡～花立遺跡～保内三王山古墳群（三条市）
一般参加者　15 名

5　歴史講座

期　日　令和５年 11 月 11 日（土）
時　間　午後２時～4 時
会　場　加茂市産業センター　講習室
講　師　滝沢　規朗　先生
　　（新潟県文化課世界遺産登録推進室）
テーマ　「古墳出現前後の信濃川右岸と左岸」
一般参加者　35 名

6　特別歴史講演会

期　日　令和６年３月 30 日（土）
時　間　午前 10 時～11 時 30 分
会　場　加茂市文化会館　小ホール
講　師　中村　元　先生
　　（新潟大学人文学部准教授）
テーマ　「日本近代史の中の地震と新潟県の人々」
一般参加者　６６名

令和５年度のあゆみ

１ 入館者数《令和５年４月～令和６年３月》

	市　内	市　外	計	団体
大　人	４２９	７３０	１，１５９	１３
中学生以下	３３８	１１５	４５３	３
計	７６７	８４５	１，６１２	１６

２　資料収集の状況

本年度、下記の方から貴重な資料をご寄付いただきました。お礼申し上げ、紹介させていただきます。

＜寄贈者名及び寄贈品数等＞

知野　利夫　様	（加茂市）	歴史資料	１点
桑原　吉清　様	（加茂市）	民俗資料	１点
岡村　茂則　様	（加茂市）	民俗資料	１２９点
近藤　アイ　様	（加茂市）	民俗資料	１５点
有本　幸雄　様	（加茂市）	歴史資料	１点
髙井　則子　様	（三条市）	民俗資料	１点
吉田　佶延　様	（新潟市）	民俗資料	５点
鳥羽　一行　様	（三条市）	民俗資料	２点

３ レファレンス・サービス及び来館者の声

① レファレンス・サービス

・加茂町の成立と発展について

⇒戦国末期頃、軍事力の円滑な輸送をねらい、武力を背景に効率よく均等に土地を分して作られたのが加茂町の原型と説明し、『加茂市史』通史編上巻の該当記事などを提供する。

・『賀茂』から『加茂』になったのは。

⇒理由ははっきりしないが、中世の古文書では賀茂と見えるが、江戸時代の古文書では加茂と記されるようになった。

・加茂町出身の植物学者早田文蔵に関わる資料はないか。

⇒加茂市立図書館資料早田博士文集をコピーし、提供する。

⇒台湾で出版された館蔵の評伝「早田文蔵―台湾植物大命時代」を紹介して貸す。

・牧野富太郎が加茂に来町した時の記事が欲しい。

⇒「牧野富太郎植物採取行動記録・明治・大正篇」をコピーし、提供する。

② 来館者の声

・無料とは思えない素敵な資料館でした。

・近藤キクさんの作品が素敵でした。

・丁寧な説明でわかりやすかった。

・具体的に「何年前のもの」「何年ごろから何年ごろまで使われた」の説明があればわかりやすい。

・幕末、明治維新の頃の加茂市の資料がもう少し見たかった。

・全体的にキャプションが古く、また通路が狭いのが気になった。

・昭和の時代に育っているので、懐かしく見させてもらった。

・昔、家に「こうり」があり、とっておけばよかったです。

・昔の人はどのような道具を使っていたのかという勉強をして、昔の人はいろんな工夫をしていたことがわかりました。

令和６年度の事業予定

１　社会科出張授業

対象　小学校６年生から高校生（希望校）

２　語り継ぐ「懐かしの加茂」映写会

日時、会場、内容（未定）

３　古文書講座（仮）

期日　10月５日（土）

講師：前嶋　敏　氏（県立歴史博物館）

内容：戦国時代の下条村領主酒井氏

４　歴史講座

日時、会場、内容（未定）

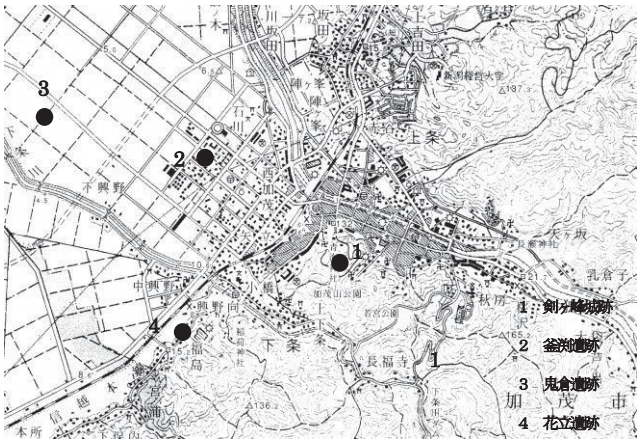
５　特別歴史講演会

期日　令和７年３月を予定

会場及び講師　未定

令和５年度遺跡発掘調査について

本年の遺跡調査は、３遺跡を対象とした確認調査と１遺跡で本調査が行われた。



調査遺跡位置図

確認調査

１　剣ヶ峰城跡―中世―

調　査　地　加茂市大字加茂字宮山地内
調 査 期 間　令和５年１２月１１日・１４日
調 査 原 因　学術調査
調査の概要　本城は標高約110mの尾根頂部にあり、南北方向約300mにわたり、曲輪や堀切が配置されている。曲輪はⅠ～Ⅴがあり、いずれも細長い尾根を区画した小規模なものである。曲輪Ⅴの南側斜面に三段の腰曲輪が配置されている。堀切は曲輪ⅠとⅡ、ⅡとⅢ、ⅣとⅤを区画する位置に設けられている。形状はいずれも箱堀状で、曲輪ⅠとⅡを区切る堀切は上幅約１０m、深さ約５mと本城の中で一番大きい。これら堀切の形状から戦国期の山城の特徴を見てとれる。

剣ヶ峰城跡　腰曲輪　南から

剣ヶ峰城跡　堀切　東から

２　釜渕遺跡―古墳～中世―

調　査　地　加茂市新栄町地内
調 査 期 間　令和５年４月５日
調 査 原 因　宅地造成
調 査 面 積　約３０㎡
調査の概要　４か所にトレンチを設け、土層堆積や遺構・遺物について調査を行った。いずれのトレンチからも遺構・遺物は確認できず、現地表面下約１mに腐植物層が確認された。このことから、調査対象区域周辺は低湿な地形環境であったことが推測される。

釜渕遺跡　３トレンチ

３　鬼倉遺跡―古墳・古代―

調　査　地　加茂市大字加茂字鬼倉地内
調 査 期 間　令和６年２月２日
調 査 原 因　農業用排水路改良工事
調 査 面 積　約８㎡
調査の概要　４か所にトレンチを設け、土層堆積や遺構・遺物について調査を行った。腐植物層の堆積がみられ、周辺一帯は湿地環境であったことが推測できる。、遺跡は存在せず、工事による埋蔵文化財への影響はない。

鬼倉遺跡　２トレンチ

本調査

１　花立遺跡 ―古墳・古代―

調　査　地　加茂市下条字福島地内

調 査 期 間　令和５年９月２９日～１０月２６日

調 査 原 因　道路建設工事

調 査 面 積　約２３９㎡

調査の概要　本年度は令和４年度発掘調査区（写真１の左側、約６８２㎡）から山側に向かう区域を調査し、大小様々な遺構約１５０基が検出された（写真１）。

特に注目されるのが井戸跡（743）である。743は直径約1.2mの円形で、深さは約0.7m。確認面から約30㎝下層で木枠が発見された（写真２）。木枠は約70㎝×60㎝の大きさで、横板を井桁状に組み上げた構造（井籠組）で、現状で三段の横板が見られる。市内で確認された井戸は大半が素掘りのもので、良好な木枠が伴う井戸は初見となり、大変貴重である。覆土からの出土遺物はほとんどない。もう一つの井戸跡(628)は、形状や規模はほぼ743と同じで、素掘りである。覆土に完形に近い須恵器無台杯やそのほか食膳具を中心とした遺物が数点出土した（写真３）。

このほかに、梁行２間×桁行３間、梁行２間×桁行２間の掘立柱建物が各１棟確認できる。また、主軸の向きと間隔を揃えた畝状小溝が認められ、畑地として利用されたことが推測される。

遺物は９世紀代の佐渡小泊窯産須恵器の食膳具が中心である。

（伊藤秀和）

写真１　調査区全景（上が北）

写真２　井戸跡（743）木枠　南から

写真３　井戸跡（628）遺物出土状況　北から

編集後記

地域の名産でありながら、木工や織物にまつわる人やモノの流れの多くは、歴史に埋もれてわからなくなっています。一方で名前のみ残り、具体的な知見を持てずにきた事柄や人物について知ることは、格別な喜びがあります。

今号では、幕末から大正時代に名を馳せた田村伴六の事績を丹念に調べた、渡邉文彦さんより寄稿を得ました。各地の作品を掘り起こし、高い知名度を誇ったことの解明は、今後の研究にも重要な手掛かりを与えます。上土倉の阿部キヨさんには、学業や生業を振り返る貴重な証言をいただきました。記して御礼申し上げます。

加茂市民俗資料館

■開館時間　１０：００ ～ １７：００

■休 館 日　月曜日、火曜日、毎月第1,3,5土日曜日
祝日、年末年始

※ 但し、4,5月は月曜日、火曜日のみ
（祝日に当たるときは次の平日）

〒959-1372 新潟県加茂市大字加茂２２９番地１
TEL / FAX: 0256 – 52 – 0089
E-mail: minzoku@city.kamo.niigata.jp
http://www.city.kamo.niigata.jp
※創刊号～第30号はWeb上でご覧いただけます。